

# インドネシア語科

インドネシア語を学んでみませんか。

インドネシアは世界に誇れるものがたくさんある国です。しかし日本の人たちはインドネシアのことをほとんど知りません。インドネシアは赤道にまたがる1万3千もの島々からなる群島国家。多種多様なエスニックグループを抱え、人口は約2億7千万で世界第4位。「赤道にかかるエメラルドの首飾り」と称されるほど美しい海と緑に恵まれた南の国。イスラム教徒人口は世界第1位。スイーツの材料としてよく使われるココナッツの生産量も世界一です。日本人に大人気のリゾート地、世界でも有数の観光地「神々の島」バリ島はインドネシアにある小さな島。世界遺産はボロブドゥール寺院遺跡をはじめ、文化遺産、自然遺産合わせて9つ。みなさんよくご存知の「デヴィ夫人」はインドネシア初代大統領スカルノに嫁いだ日本人女性です。第2次世界大戦時は約3年間日本の統治下にありました。それは両国にとって悲しい歴史でもあります。それらのことも含めて日本とはご縁が深いのです。どうですか？心惹かれませんか？少しでも興味をそそられたなら是非インドネシア語科を覗いてみてください。「インドネシア語、やってみたい」「インドネシア、行ってみたい」という方ならどなたでも大歓迎です。経験豊かな講師陣と一緒にインドネシアを覗いてみませんか。

インドネシア語はインドネシア共和国の国語・公用語であり、多種多様な文化、独自の言語を持つエスニックグループ間の意思疎通のツールとして使用されています。「インドネシア語」という概念が生まれたのは国家建国より前にさかのぼりますが、国語・公用語の地位を獲得してからまだ一世紀にも満たない言語なのです。ですから現在も常に進化と変化を繰り返している最中の「生きている言語」ということができます。

インドネシア語は文法規則が少なく構造もシンプルで、日本人にとっては比較的取り組みやすい言語といわれています。文字はアルファベット26文字で表記され、発音はほぼ綴りどおり。人称、格、時制、単数・複数などによる語形変化もおきません。

動詞や抽象名詞などの派生語形成においては接辞に関する独特な法則性が存在するため、一概に“簡単”とは言えませんが、その「ルールブック(文法)」を手に入れさえすればパズルやクイズを解くような感覚で一気にインドネシア語への理解が進むという面白さもあります。

インドネシア語科では、ネイティブスピーカー講師と日本人講師により、聴く、話す、読む、書く、などいろいろな角度からアプローチする授業を展開しています。会話ができるようになりたい、ユニークな文化に触れてみたい、文法について知りたい、インドネシア語で書かれたものを読んでみたい、日本語からインドネシア語を作文する技術を学びたい…など、様々なニーズやレベルに対応した講座をご用意しています。「レベル目安」と「講座内容」を参考に、ご自身のレベルやご興味に合った講座を選んでみてください。

詳細は以下の慶應外語 Web サイトにてご確認ください。

<https://www.fl.s.keio.ac.jp/>